

M1 ミニシンポジウム 1 1日目(9月15日)

「スーパーコンピュータ活用の未来」

開催趣旨

2012年の本格稼働に向けて次世代スーパーコンピュータの建設が神戸市で進められている。今後世界の(スーパー)コンピュータの開発はどのような方向に向かっていくのか、その中で日本の目指すべき方向性やポジションは何か、とりわけ、医療・創薬分野においてどのような応用の可能性が広がっていくのか、また、そのために克服すべき課題は何か、等の諸問題について、各分野の論客によるパネルディスカッション形式でミニシンポジウムを開催する。本企画は来年神戸市で行われるCBI2011へ向けた助走としても位置づけられ、多くの参加者と問題意識を共有することを目指したい。

座長：田中成典(神戸大学) 小長谷明彦(東京工業大学)

プログラム

M1: 14:00-16:00

(1) パネル討論会の位置づけ 5分 座長(小長谷明彦、田中成典)

(2) 自己紹介 各パネラー 5分ずつ

パネラー：小柳義夫(工学院大学) - スーパーコンピューティングの立場から -
宮野悟(東京大学) - バイオインフォマティクスの立場から -
船津公人(東京大学) - ケモインフォマティクスの立場から -
杉田有治(理化学研究所)
- 戦略プログラム(特に分子シミュレーション)の立場から -
富本昌樹(武田薬品) - 製薬企業の立場から -

(3) 質疑応答

(4) まとめ 座長(小長谷明彦、田中成典)